

3月定例会を振り返って

会派の意見

市民クラブ

中心市街地の定期借地権の設定には議会の議決を必要とする条例改正案を提出。可決！

田鍋剛議員は、高知県新食肉センターの整備計画は、現センターが開設以降赤字であったことや、一度も目標のと畜頭数を確保できなかったことなどを挙げ、無謀とした。市長は、整備費の本市負担分は約4億円とした上で、通常の運営赤字の補填や土地の借地料等の減免はしないと答弁。また、家庭ごみのふれあい収集について環境部長から「自らごみを持ち出すことが困難な世帯を対象に週一回実施する。本年10月から試行し、31年度中に全域での運用とした」と答弁あり。

岡崎豊議員は、聴覚障害等の方々への情報伝達手段として、緊急時にテレビの音声や画面で情報を提供するテレビ・ブッシュシステムを提案し、検討する

との答弁を得た。財政面では、新規コストやソフト事業等が増加し財政の硬直化が進むことから、財政構造の改善を求めた。

深瀬裕彦議員は、市街化調整区域の規制緩和について、南国市やいの町、山形市の状況を例に指摘し、既存の空き家の活用やコミュニティ維持、地域再生のため、本市でも規制緩和が必要との観点から質問した。また、防災面では津波避難場所の平面化、舗装化について質問した。

日本共産党

結論ありきの西敷地プロポーザル選定を追求。核兵器禁止条約不参加の再考求める意見書採択。

代表質問に下元、個人質問にはた、浜口、細木、岡田の各議員が登壇。◎新図書館西敷地について、情報公開請求を行い、選定要領が決裁も議事録もなく書き換えられ、資金計画等が不十分な提案でも二次審査に進めるようにしたことを明らかにした。非公開かつ不明朗な選考によって選ばれた優先交渉権者名や事業計画を議会に説明ないままに計上した契約に係る予算削減を求める討論を、迫議員が行うが否決。◎30年度予算議案等には、下本議員が頓挫した浦戸「道の駅」や仁井田産業団地など特定業者につながる歪んだ市政運営で9千万円近い税金を無駄にしなから、厳しい財政状況を強調し、市民の暮らしを支え

る医療（国保）、介護、上下水道等の負担増は許されないと反対討論を行った。◎デマンド型タクシーへの移行で削減された3千万円超の経費による交通弱者支援策を求めた。◎小学校入学前の就学援助入学金準備金支給を行う他市の運用状況を示し、教育長の決断次第と迫るが実施時期の答えはなかった。

新風クラブ

会派提言「丸ノ内緑地・藤並公園の整備」が実現へ！

◆竹村邦夫議員の代表質問

再び財政逼迫状態に陥った新年度予算に関し、大型施設建設によるランニングコストの増加と基金残高の見直しについて質問。財務部長から「新庁舎、オーテピア、中学校給食センターで年額約2億8千万円を見込んでおり、他要因の収支不足もあり、財政調整基金は30年度中に枯渇する」と説明があった。

◆水口晴雄議員の個人質問

高齢化などで担い手不足となっているよさこい祭りの競演場や演舞場の支援について、商工観光部長は「既に関係者と意見交換を行っており、今後、会場ごとに運営手引の作成を通じて運営側の後継者育成を目指しながら、ボランティアの受け入れ体制を整備していく」と答えた。

◆中澤はま子議員の個人質問

いの町に支払っている仁淀川取水に係る環境保全対策費を見

直す必要を岡崎市長に迫った。市長は「相手があることで交渉は容易ではないが、将来の水道事業の広域連携のあり方の協議を進める中で、事情の変化を理解していただけるよう、環境を整えていきたい」と答えた。

公明党

市民の安心・安全求めて！

西森美和議員はシキボウ跡地周辺等の浸水対策が本格実施となることを評価しつつ、一ツ橋・三園町の対策を求めました。都市建設部長から「30年度に一ツ橋排水機場の能力アップに着手する」旨の答弁を得ました。

伊藤弘幸議員は自転車安全対策について質問しました。市民協働部長から、事故の危険性を考えるとヘルメットの着用や保険の必要性を感じており、県条例の内容が固まった段階で連携を図るとの答弁がありました。

山根堂宏議員は、全国各地で毎年発生している土砂災害から国民の生命等を守るための改正土砂災害防止法の施行と、31年度末までに基礎調査を完了させる県の方針を受けて、本市の対応・対策を求めました。

寺内憲資議員は、公会計データの活用が財政の見える化につながることから、事業別行政コスト計算書等のデータ作成と公表を求めたところ、市長から行政コストの見える化に努めるとの前向きな答弁がありました。

新こうち未来

新図書館西敷地プロポーザル選定事業関連予算を削減する修正案を提出。

新図書館西敷地を巡る論戦、質疑を経て、執行部が「優先交渉権者の提示した50年間の収支計画および資金計画に不安がある」と答弁するなど、これまでの選定過程全てに疑問を抱かせる結果となり、ますますマンシヨン建設ありきの疑念が深まる一方となった。そのため今回の優先交渉権者との契約は白紙に戻すべきとの考えから、定期借地権設定契約の際の弁護士委託料を削減する修正案を提出した。市民アンケートの結果はもちろん、広く意見を求め、同敷地の利活用については市民が納得できる形で議論し直す必要があると考える。その他、代表質問に福島明議員が登壇。氏原嗣志議員、戸田二郎議員、川村貞夫議員、浜口卓也議員がそれぞれ個人質問を行った。

みどりの会

近森正久市議

3月議会は図書館西敷地のプロポーザル審査の異常さを徹底して指摘。商工観光部長から決定企業の財務内容と収支計画が不安との答弁を引き出しました。図書館西敷地は中心商店街に残る高知市民の大切な土地です。市民が納得の利活用を求めます。